

正智深谷高等学校特別コラム

# Mind Charging

Since 2020

第351回

橋本多佳子

の名言

発行：入試広報室

発行日：令和5年4月5日

編集委員：入試広報室 鈴木



今回の言葉

桜の花が咲くことで、  
私達の心も踊り、  
新しい希望が生まれます。

橋本 多佳子は、日本の俳人。本名、多満。旧姓、山谷。杉田久女につき句作を始め、虚子、誓子に師事した。「馬酔木」のち「天狼」同人。女性の悲しみや寂寥を詠み、古雅な中に知的な色彩を与えた。句集に『海燕』、『信濃』など。

## Column

近頃は暖かい日が多くなり、すっかり春を感じられるようになりました。いよいよ令和5年度がスタートということで、今回は春の象徴でもある『桜』にちなんだ名言を紹介します。みなさんが通う正智深谷高校の周辺にはたくさんの桜が植えられています。特に深谷駅から向かう川沿いの道は桜並木になっており、水面に映る桜を含めて素晴らしい景色が広がっていて、満開の時期の美しさには今回の言葉のような“心も踊る”といった気持ちになります。

今回の言葉に触れた時に『本番』について考えました。今回取り上げた桜も、春の訪れを告げるように満開に咲き誇り、人々に注目される春が桜にとって本番と言えるかもしれませんが、緑の葉をつけている夏、葉も落ちて幹や枝だけの秋から冬など、日常の風景に溶け込んで注目されることが殆どない時期があってこそ美しい花を咲かせる事ができるのです。そういう意味では本番の素晴らしさはもちろんですが、本番に至るまでの準備期間の長さに対する本番の一瞬で終わってしまう儚さも感じます。数ヶ月かけて勉強してきた成果をたった4日間ですべて出し切る難しさのある定期試験や、合宿やハードなトレーニング期間を経て望むたった2日間の部活の大会など、みなさんも同じように本番を迎えています。みなさんの場合は不安やプレッシャーによって心が踊るといった心境ではないかもしれませんが、しかし、今回の言葉と同様に本番を迎え、懸命に戦っているみなさんの姿を見た人は、みなさんの頑張りが伝わって心が踊るのです。

みなさんは人を感動させるような大きな可能性と力があります。誰かを感動させるために努力する必要はありません。自分自身に期待し、自分の信じた道に向かってひたすらチャレンジをするだけでいいのです。結果が思わしくなかったとしても下を向かず、分析して再チャレンジすることに希望を持ちましょう！成功だけでなく、成長にこだわってここからの新たな一年を走り抜けていきましょう！